

第12回 海岸勉強会メモ(案)

日時:平成20年12月6日(水)

19:00~21:00

会場:住吉公民館

[参加者]

- ・一般の方：42名
- ・行政担当者等：14名（宮崎県：河川課・港湾課・中部港湾事務所、国交省：宮崎河川国道事務所、宮崎市：土木課）

【説明内容】

説明者：ひむか砂浜ネットワーク 住吉海岸を守る会 川崎和馬氏

- ・いまの海岸の状況を多くの人に知ってほしい。
- ・開発行為を改善してほしい。
- ・自分達の主張は、サーフスポットが失われているからというのではなく、純粋に海岸が好きという思いから。
- ・海岸は宮崎にとって財産ということを共通の思いとして持ってもらいたい。

【質疑、意見等】

- ◇砂浜の状況や質について過去から変化があったか。
- ◇一ツ葉海岸及び大淀川付近では砂が硬く、足が入らない。海底地形の変化が少ない。動物園裏付近では砂が柔らかく、動きやすい。
- ◇石崎浜付近では砂が柔らかく、足が埋まり、海中で砂が舞う。海底地形が変化しやすいようだ。
- ◇波の状況にあまり変化はないが、海底地形の変化のサイクルが長くなった気がする。
- ◇昔から住吉海岸は水深が深かったが、さらに深くなった。
- ◇大きい波でなくても波が割れやすく（砕波しやすく）なった。
- ◇汀線から300m沖付近で波が割れている。沖のほうに砂がたまっているのではないか。
- ◇石崎浜の試験養浜後も、一ツ葉付近では砂の状況に変化は無い。一ツ葉までは砂が来ていないのではないか。
- ◇護岸により砂浜が回復したという実感を持ったことはない。
- ◇宮崎海岸は確かに貧栄養だが、貝は全くいなくなったわけではなく、チョウセンハマグリやキサゴの仲間もいるはず。
- ◇今年は養浜後豪雨があり、養浜砂も相当流された。反面、波はここ10年で最もよかった。特に、石崎川河口周辺は良かった。
- ◇養浜材は一旦沖に流されて溜まり、汀線に戻る。その繰り返し。
- ◇サーファーは皆、昔から乗りなれた波に誇りと愛着を持っている。
- ◇ビーチクリーン活動は、マリーナ建設や離岸堤設置の時にあきらめて活動しなかったことの反省を経て、これ以上自分たちの海を変えたくないという思いから、まずは自分たちで出来る清掃活動（毎月第2日曜日）を始めている。一人一人が自分の手でゴミを拾い、どこから辿り着いたのか、どう改善していくのかを考える機会としている。

◇波打ち際までの車の乗り入れについての対応も考えてほしい。海岸の良さ、利用マナー、砂浜の重要性等と呼び掛ける看板の設置をお願いしたい。

◇県外のサーファーのマナーが悪いため（ゴミ捨てなど）、地元のサーファーが指導して欲しい。

◇今回はサーファーの方々の「思い」が良く伝わる内容だった。特に「海岸は宮崎にとって重要な財産」という部分が強く印象に残った。

【次回以降の予定等】

- ・第13回勉強会は、平成21年1月24日（土） 住吉公民館
- ・養浜工事現場説明を行い、その後公民館で宮崎河川国道事務所海岸課より「宮崎海岸事業の進め方について」の説明を行う。